

お互いに自分らしく 気楽に

なみかわ ひ で お
並河日出夫さん・やよいさん



並河さんご夫婦は、お互いを尊重し支え合いながら人生を築いてきました。日出夫さんが50年間書き続けてきた日記からは、その時々々の社会の様相が伺えます。

■日記は「生きてきた証」(日出夫さん)

20歳を過ぎたころ、ある人に「平均年齢を日数にすると約3万日。人生は無限と思うと無駄遣いしてしまうけど、有限と思うと生き方変わるよ」と言われて。ハッと気付いて自分の生きてきた証を記録しようと思ったのがきっかけです。



一 日記にはどのような内容を書いていますか

イベント、子どもや孫の誕生日、知らなかった知識、それに「これは二度としたくない」失敗も書きます。私は「記録なくして反省無し」と思うんです。記録がないと自分をかばい、失敗を曖昧にするので、赤裸々に書くようにしていますね。日記を読み返すと、昔の情景が浮かんできます。

妻と出会った時のこともつづっています。私は当時から、男女はフェアだと考えています。同じような考えを持つ人と出会えた、とても懐かしい瞬間です。

一 続けて良かったことはありますか

話の引き出しが多くなったと思いますが、まだまだ現在進行中。良かったことはこれから出てくるかもしれません。人生の最期まで書き続ける事が目標です。

■互いに無理な要求をせず、尊重すること(やよいさん)

私は夫のように50年続けてきたことはありませんが、金婚式を無事に迎えたいです。現在結婚44年目なので、あと6年ですね。

昔は私が「海外へ行った」と言うと、「そういう人は相手にしません」とか、「女のくせに」と言われるような、閉鎖的な時代でした。新聞を読むのが好きで、毎日読んでいたのですが、「毎日のように新聞を読んでいるような女は嫌だ」と男性に振られたこともあり。初めて顔を合わせたとき、私が何を言っても、彼(日出夫さん)は全部受け入れてくれて。私が「できたら結婚しても仕事したいんです」と話すと、「いいですよ、社会とつながりを持つことは」と言ってくれたんです。「こういう人いるんだ」って思いました。

一 夫婦円満のコツはありますか

相手に過剰な期待をせず、「自分らしく」を貫いてきたことでしょうか。ご飯も作りたくないときは外食やカップラーメンにしたり、一週間に1、2回はお弁当を作って取手ウェルネスプラザで食べたりします。自分たちで変化をつけないと飽きてしまって。お互いに自分らしく気楽にいないと、嫌になるじゃないですか。せっかく縁あって一緒になったのだから、できれば末永く過ごしたいですよ。



**こんな
取り組みが
あります！**

男女共同参画を知ってもらうイベント

市民の有志で毎年開催する「男と女ともに輝くとりでの集い」。男女共同参画への意識を浸透させていくため、毎年さまざまな業界からゲストを呼び、講演を行っています。



※今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

性別記載欄を見直し

LGBTなどの性的マイノリティーの方々に対する配慮から、市が使用する申請書などの性別記載欄を見直しました。

業務上必要なものを除き、性別記載欄の削除、または統一した任意記載欄を設けました。

早い段階から
取り組みました

市は男女共同参画社会の実現のため、「第三次取手市男女共同参画計画」のもとにさまざまな取り組みを行っています。市民アンケートを行い、新たな計画も策定中です。

詳細は
ホームページで



男性の家事参加

共働き世帯が増加する中、これまでの男女の固定的性別役割分担の意識を変える必要があります。市は男性向けの「おとう飯 料理教室」などを開催し、男性の家事参加の普及啓発を進めています。



出前講座

市職員が男女共同参画について分かりやすく解説する、出前講座も行っています。

さまざまなシーンやリクエストに応えます。
※出前講座受講希望の方は市民協働課へお問い合わせください。

市ホームページ
で紹介中！

男女共同参画紙「風」とは

男女共同参画に関する情報や市内での活動状況を市民や事業者の皆さんに広くお知らせし、男女共同参画に関する理解を深めるために発行しています。4人の市民編集員が取材し、紙面を作成しています。



バックナンバー
はこちらから



今回は、「風」の市民編集員の皆さんと一緒に取材しました！



下園 淳子さん



落合 伊佐男さん



河口 優子さん



糸井 弘さん